

Support Our Kids

第2回 海外ホームステイプログラム in UK

実施レポート



2012年8月

Support Our Kids実行委員会

1. 概要

■ホームステイ概要

日時：2012年8月10日～8月24日

※9日、東京にて事前研修

〈渡航〉

8/10 ANA201 成田空港 11:30発

8/24 ANA202 成田空港 15:20発

場所：ロンドン・グリニッジ

参加：10人（引率1人）

内容：
・ホームステイ
・短期留学
* 語学学校：アイエスアイエス
・異文化交流
・アクティビティ
・オリンピック観戦（男子60kg級レスリングフリースタイル）



■企画協力

イギリス大使館、
アゼリーグループ、
アルパインツアーサービス株式会社、
公益財団法人ラボ国際交流センター、
NPO法人日本オリンピック・アカデミー
e.i.l.

ISISGreenwich

※敬称略・順不同

2. 事前研修

■事前研修

日時：8月9日 14:30～20:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

内容：子どもたちが海外でホームステイをするための準備。ホームステイ国について調べてきた宿題の発表やお互いの被災状況も共有しました。
また、自己目標、グループ目標を決め、出発に向けて意識を高めました。

日程	時間		内容
8月9日	12:00		東京駅集合 ※研修場所に移動
	13:00 ~		チェックイン・施設案内 休憩 名札作成 ※研修に付ける名札を各自作成
	14:30 ~ 14:35		事務局挨拶 (引率者紹介含む)
	14:35 ~ 14:55		自己紹介&アイスブレイク
	14:55 ~ 15:15		ホームステイプログラムの内容
	15:15 ~ 15:20		(休憩)
	15:20 ~ 15:55		ホスト国について
	15:55 ~ 16:20		オリンピックについて
	16:20 ~ 16:25		(休憩)
	16:25 ~ 16:45		ホームステイの心得
	16:45 ~ 17:45		ケーススタディ〜こんなときどうする?〜
	17:45 ~ 18:00		保険について
	18:15 ~ 19:00	夕食	
	19:15 ~ 19:30		経験者体験談・体験者への質問
19:30 ~ 19:45		質疑応答(全体)	
19:45 ~ 19:55	研修2	個人の目標設定	
19:55 ~ 20:25		グループの目標設定	
20:25 ~ 20:30		まとめ・明日の予定確認・連絡事項	
8月10日	20:30 ~	入浴	入浴 就寝
	5:30 ~		起床
	6:15		チェックアウト
	7:00 ~ 7:15		出発直前 TBS 朝ズバツ!訪問 電車で成田空港へ移動 ※ANA201 11:30発



事務局長 秋澤志篤



公益財団法人ラボ国際交流センター
平野昌和氏



フェリス女学院大学 和田浩一氏



駐日英国大使館
Sir.ディビッド・ウォレン大使

3. スケジュール

Aug 2012						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9 事前研修 in 東京	10 TBS訪問 成田発 ホストファミリー と対面 ホームステイ 開始	11 PM: オリンピック 選手村見学 オリンピック観戦 (男子レスリング)
12 ホストファミリー と過ごす	13 AM: アクティビティ PM: オリエンテーション (学校)	14 AM: アクティビティ PM: 学校 英語レッスン	15 AM: アクティビティ PM: 学校 英語レッスン	16 AM: アクティビティ PM: 学校 英語レッスン	17 アクティビティ	18 ホストファミリーと過 ごす
19 ホストファミリー と過ごす	20 AM: アクティビティ PM: 学校 英語レッスン	21 AM: アクティビティ PM: 学校 英語レッスン	22 AM: お別れ パーティ PM: 学校 英語レッスン	23 ロンドン発	24 成田着	25
26	27	28	29	30	31	

4. 学校の様子



5. アクティビティ



6. 帰国・解散式

■解散式 成田空港

日時：8月24日 16:30～17:30

場所：成田空港ラウンジ

Terminal 1, South Wing 1st Floor: room:S-10)

内容：ホームステイプログラムの振り返り。

海外で学んできたこと、感じたこと、今後に活かしたいこと、支援して下さった方に伝えたいこと等について発表しました。



7. メディア

◎TBS「みのもんたの朝ズバッ！」で放送されました！

- ・7/30 第1回放送
- ・8/13 第2回放送
- ・8/27 第3回放送

◎TOKYOFM LOVE&HOPE

～ヒューマン・ケア・プロジェクト～



◎日本レスリング協会公式サイトより

【ロンドン五輪第7日・特集】被災地から佐藤響選手(岩手・宮古二中)がロンドンを訪れ 試合観戦

- 2012/08/12

【ロンドン(英国)、文・撮影＝樋口郁夫】レスリング競技第7日の会場に、今年3月の全国少年少女選手権6年生の部42kg級2位の佐藤響選手(当時山田クラブ＝現岩手・宮古二中)の姿があった。昨年の3・11東日本大震災のあと、被災地の子供たちの支援活動をする東日本大震災被災児童自立支援プロジェクト「Support Our Kids(事務局:NPO法人次代の創造工房)」の活動の一環でロンドンを訪れていた。

現地に同行した引率の青島氏は「被災された子に何とか前を向いてもらおうと活動しています。海外へ連れて行き、文化交流をさせて日本にないものに接することで、何か新しいものにチャレンジしてくれれば」と説明する。昨年はニュージーランドに50人を連れていき、今年は英国のとニュージーランド、このあと米国へと派遣が予定されている。英国組は24日まで滞在し、英国の文化にふれる。



佐藤選手(左)と交換留学に参加の山口照彩君(福島・泉崎中)

佐藤選手の父・学さん(44歳)は津波で流され、今も行方不明。あと3ヶ月で死亡が確定する状況だという。自宅は跡形もなくなり、避難所生活を経て現在は市営住宅に住んでいる。「最初のうちは悲しんでいました。少したって、そんなことを考えてばかりいては前に進めないな、と思うようになりました」。

レスリングをやめようと思ったそうだが、周囲のみんなが支えてくれてとどまった。「今、ここに来ることができ、続けさせてくれた人に感謝の気持ちでいっぱいです」と言う。帰国したら、大人の顔になり、中身も大人になった自分を「母に見せたい」と話した。

初めて見たオリンピックは「トップアスリートが闘う最高峰の闘いですね。間近で見て感激です。技をベースに力や勝負強さなど、すべてにおいて上回っている選手が勝っていますね」と言う。この日は日の丸が揚がらず残念だったが「頑張ってくれました。湯元選手の上に行く選手を目指して頑張りたいと思います」ときっぱり。

オリンピックは「世界の最高峰の闘いということを実感しました。技をベースに、力や精神力など、すべてに上回っている選手が勝っていますね」と感じたという。この日は3日前に金メダルを取った小原日登美(自衛隊)とも対面し、感激の面持ち。

今回の経験をもとに、より力強く生きていくことで、天国の父(まだ確定はしていないが)も喜んでくれるはずだ、

8. 参加者の感想

■H.Hさん（福島県）

ふと、ラジオでSupport Our Kidsの情報を知って、スタッフの皆さんをはじめ、このプロジェクトを支えてくださった皆さん、家族や先生の支えのもと、高校最後の夏休みに、10人の素晴らしい仲間と素晴らしい経験をすることができました。幸運に幸運が重なって、オリンピック2012の開催地であるロンドンで、普通では体験できないことが沢山ありました。多くを学ぶ中で、今までの自分を見つめなおし、新たな目標を持つことができました。実際に足を運んで、自分の目と心で見て、自分の耳と心で聴いて、自分の肌と心で触れて…。自分でチャレンジしなければ、本当の発見はできません。皆さんの支えがあって、今の私があります。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

■M.Oさん（宮城県）

Support Our Kidsの企画に参加できて本当によかったです。このホームステイを通して感じた様々なことや、胸に秘めた思いを、今度は日本の地で実践していくと同時に、必ずまた海外に行こうと決心しました。この様な貴重な体験をさせてくれたSupport Our Kids、そして自分たちの見えないところでサポートしてくださった方々に感謝しています。また、最高の2週間を過ごさせてくれた9人の仲間やこのホームステイを通して出会った全ての人との出会いを大切に、この関係をつなげていきたいと思えます。今後、大学進学後に今度はSupport Our Kidsのサポート側にまわって、もっと沢山の人の自分のした体験を伝えていきたいので、今後もよろしくお願ひします。最高の2週間をありがとうございました。

■H.Aさん（宮城県）

今回私がイギリスに行くことが出来たのは、本当に多くの方が私たちにお金ではなく、気持ちと心を分けてくれたのだと思えます。憧れだった外国、それもオリンピック中のイギリスに行けるなんて人生のうち1回あるかないかだろうと思えます。忙しい中、いっぱい準備を手伝ってくれたお母さん、英語を熱心に教えてくれた先生、校長先生、一緒にイギリスで色々なことを教えてくれたトシさん、SOKでサポートしてくれた新山さん、磯さん、その他の皆さん、テレビ局やラジオなどでも支援してくださった方々、大使館の皆さん、その他にも沢山の人の手がかかったことだと思えます。チャンスを与えて頂いた分、立派な大人になって、もっとみんなをひっぱっていけるように頑張りたいと思えます。感謝の言葉だけでは伝えきれないほど感謝しています。本当にありがとうございました。

■Y.Nさん（宮城県）

今回僕たちのために支援してくださった方々に、本当に感謝しています。寄附してくださった皆さん、2週間僕たちを滞在させてくださったホームステイ先の家族の方々、勉強する場を設けてくださったEILの方々、そして、Support Our Kidsの皆さん、皆さんのサポートがなければ、僕たちはこんないい体験をすることはできませんでした。今後は皆さんの期待を裏切らない立派な大人になって、今度は僕が支援する立場になって、今の僕たちのような子どもたちを支援していきたいと思えます。頑張ります！